

授業改善推進プラン〈学年別〉

04 練馬区立豊玉第二小学校

1年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・言語指導に時間を要するため、読むことや書くことの指導時間を十分かけられなかった。 ・伝え合いの力が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語指導の時間は、基礎学習の時間も活用する。 ・読むこと、書くことを計画的に指導する。 ・伝え合いの活動を入れ、二人、グループ、クラス全体といったように段階的に人数を増やすことで心的な抵抗をなくし、技能を引き上げていく。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の技能が十分とはいえない。 ・問題の読み取りや立式の力が全体的に不十分である。 ・個人差が大きく、個別指導が必要な児童がかなりいて、支援が不十分だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日計算の宿題を出し、継続的に行わせる。 ・具体的な操作活動を多く取り入れ、理解を助ける。 ・一斉指導とともに、進度に応じた個別課題や個別学習の場を設定する。可能な限り支援員の学習支援を得られるようにする。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・天気等の関係で、計画通りに進められないことがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に合わせて、見直しをもって児童の実態に合った内容を計画する。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽の鍵盤ハーモニカでは、正しい運指や息づかいで演奏することが難しい児童がクラスの1/4ほどいる。 ・歌唱では、正しい音程で歌ったり、伴奏をよく聴いて合わせて歌ったりすることに課題がある児童が多い。また、のどに力が入ってしまい、怒鳴るような声で歌う児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤や指の拡大図を用い、児童が正しく運指を覚えられるようにする。習熟度が低い児童には、休み時間等を利用して個別指導を行う。 ・自分の声と教師の範唱を比較して歌う活動を取り入れることで、音程のずれを児童自身が認識できるようにする。また、低学年の元気な発声を価値付けながらも、きれいな声で歌うためのポイントを示して継続的な指導を行う。(姿勢・表情・声の方向) 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣や体験の違いにより、道具や材料の取り扱い方に幅がある。 ・初めて扱う材料に不安な気持ちをもつ場合がないように、安心して取り組めるような環境設定が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や季節の行事と関連づけた課題を取り入れ、共通の体験をする。 ・題材の導入時に、取り扱う道具や材料の基礎を養う課題を用意し、造形遊びを中心とした活動で、道具や材料の取り扱い方を自然に身に付けさせる。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒の学習において、安全面の確保と、一人一人の運動量の確保の兼ね合いが難しい。 ・体を動かす楽しさを味わう運動・友達とかかわり合う運動・基本的な動きを身に付ける運動を意図的に取り入れたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の運動経験を踏まえ、グループ分けや児童同士の教え合いなどを取り入れる。 ・学習カードを工夫し、児童が運動に主体的に取り組めるようにする。 	

授業改善推進プラン〈学年別〉

04 練馬区立豊玉第二小学校

2年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防のため、3人以上のグループの伝え合い活動は十分にできていない。 ・漢字の定着に個人差が見られる。4、5月に習う漢字の書き順があいまいになっている児童が多い。 ・物語文・説明文の読み取りが十分ではなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策をした上で、学級会などの回数を増やし、話し合い活動の機会を増やしていく。(コロナの感染状況が落ち着いてくれば、積極的にグループ活動を取り入れていく。) ・漢字を適切に使えるように、ノートや作文等を書く中で指導をしていく。 ・間違いの多い漢字が出てきたら、その都度クラス全体で確認を行う。 ・読解力を高めるため、文章を読む際には「いつ」「どこで」「だれが」「なにをした」かを確認しおおまかに文章を捉えられるようにする。また読書の時間を活用し、日頃から様々なジャンルの読みものに親しませる。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差が大きく、個別的な指導が必要な児童がいる。 ・計算問題は得意だが、文章問題の立式を苦手としている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本が身に付くよう、反復練習をさせる。 ・国語と関連付けながら、問題では何を問っているのかを考えさせ、その場面を想像しながら文章問題に取り組むようにさせる。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習が実施できず、学区域に関わる学習ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三密を避けた感染症対策をした上で、町を探検したり、受け入れを行っている施設のみ見学をしに行ったりして、学習を進めていく。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では、範唱をよく聴いて正しい歌詞やリズムで歌うことができるが、フレーズを意識したり、曲に合った発声で歌ったりすることにはまだまだ課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のまとまりを生かして歌詞を音読する活動を取り入れ、児童がフレーズの意識をもてるようにする。また、教師が指揮をする場面を増やすことで、のばす音を大切にのばしたり、ブレスのタイミングをそろえたり、フレーズをつなげて歌ったりすることを視覚的に分かるようにする。フレーズをつなげたり、きれいな声で歌ったりするための発声を、継続的に指導する。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・全体に多少の幅はあるものの道具や材料の取り扱い方は身に付いてきている。描いたり、作ったりしたものを見て、作品のよさに気付いたり、関心をもったりする機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作過程の中で楽しく見る機会を増やす。時に応じて交換カード等も使う。友達のよさを見付け自分の表現に生かしたり、自分の見方・感じ方を確かめたりできるようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・休校期間の影響で体力の低下を感じる。 ・体を動かす楽しさを味わう運動や、友達とかわり合う運動を取り入れているが、基本的な動きを身に付ける運動を意図的に取り入れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が接触する活動は難しいが、運動量を多く確保できるような活動を取り入れる。 ・補助運動のときに、主運動につながり、楽しみながら運動感覚を身に付けられる活動をよく精査して取り入れる。 	

授業改善推進プラン〈学年別〉

04 練馬区立豊玉第二小学校

3年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くときに習った漢字を活用することができない。 自分の意見をうまくまとめられない児童がいる。 作文を書く際に、自分の意見を筋道立てて書くことができる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習の際に、頻出単語を取り上げる。 書き方を理解させるために、作文指導を行う。それに伴い作文に慣れさせるため、土日に向けて作文を宿題に出す。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に基礎的な知識や技能を習得している。しかし、課題の意図をつかめない児童や言葉の支援が必要な児童がいる。自力解決に意欲をもち発表もすすんで行うが、解決方法を筋道立てて表現することは、まだ十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材を工夫し、アレイ図や数直線などを活用して、個々の支援を行い、積極的に問題解決に取り組めるようにする。課題の題意を捉える時間を確保し、問題を整理しながら筋道を立てるよう支援していく。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験に興味、関心をもち、意欲的に取り組んでいるが、観察、実験から得たことを考察することが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験から得られた知識が、身近な生活の中でどこで生かされているかを児童に想起させる。また、授業のまとめにおいて、学習した知識を児童に質問しながら知識の定着を図る。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 地図などの情報をもとに、自分たちの生活に学習した知識を関連付けることがあまりできない児童がいる。 地図やグラフなどの読み取りができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容が子供たちの生活経験と結び付くように授業の展開を工夫する。また、自分たちの住んでいるまちに関心がもてるようにする。 地図やグラフの読み方を提示し、児童自身で読み取る活動を増やす。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーでは、運指は定着してきたが、息の量を調節することができず、ピーという雑音が出てしまう児童が数名いる。また、隙間をつくらずに穴をふさごうとすると、指に力が入ってしまう児童も多い。 リズムのみの読譜は、ほとんどの児童が正しく読むことができる。その一方で、階名を正しく読むことは不十分である。簡単な譜面を階名唱することも難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 演奏する際に口周りや指に余計な力が入っていないかを、児童が鏡を見ながら練習できるような環境をつくる。個別指導でそれぞれのつまずきに応じた支援を行う。 常時活動として簡単な譜面をリズム読みしたり、階名唱したりすることを通して、児童が正しいリズム・正しい音で読譜できるようにしていく。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや願いを生かしたものを作ったり、表したりすることには、積極的かつ意欲的である。描いたり作ったりしたものを見て、作品のよさに気付いたり関心をもったりする機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作過程の中に、楽しく見る機会を増やす。時に応じて鑑賞カード等も使う。友達のよさを見付け、自分の表現に生かしたり、自分の感じ方を確かめたりできるようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 腕の力がない児童が多いため、鉄棒や遊具などでは、自分の体重を長時間支えることが難しい。そのため、技能の個人差が顕著である。 	<ul style="list-style-type: none"> 技の向上が図れるよう、スモールステップで練習メニューを提示し、より多くの「できた！」を実感させるようにする。 腕の力を鍛えるために、体育の時間に腕を鍛えるような補助運動を取り入れる。 	

授業改善推進プラン〈学年別〉

04 練馬区立豊玉第二小学校

4年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字が定着しない児童がクラスに数人おり、文章の中で正しく使うことができるように漢字の習熟に関する指導を充実させる必要がある。 ・物語文などの読み取りを広めたが、深め合うまでではないことがあった。 ・自分の考えを分かりやすく文章に書けない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の小テストを定期的に行う。 ・漢字ドリルや漢字ドリル用ノートを使って、日常的な指導を図る。 ・教材研究をし、読み取りを深められるような授業の展開(個人一ペアー全体)をし、学び合いの場面を取り入れていく。ワークシートやノートの使い方の工夫をする。 ・感想の書き方や要点のまとめ方を提示し、慣れさせていく。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技能の習得に差がある。 ・自力解決のとき、解決方法がなかなか見いだせない児童や、考えをうまく書けない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・位取り表のような半具体物を用意し、支援が必要な児童に対し個別の支援を行うようにする。また、教材教具を工夫し、操作を通じて自力解決していけるようにする。 ・前時の学習を振り返るとともに、既習事項をもとにして問題を解決するように授業展開を工夫する。 ・自分なりの解決方法を見いだせるように、自力解決の時間を多く確保する。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験に興味・関心をもって意欲的に取り組めるが、取り組み方や記録の仕方には個人差が見られる。問題解決的な活動に沿った学習がまだ十分定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験の方法・記録の仕方について、個別に指導していく。問題解決的な学習を繰り返し、ワークシートを活用することで理解の定着を図るとともに、問題解決型の学習に慣れさせていく。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習や新聞やレポート等にまとめることはとても意欲的に取り組めるが、自分たちの生活に関連付けることがまだ不十分である。 ・今年度は、出前授業や見学を実施できないため、体験学習をできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用して見学できないものを見せるようにし、身近なものや社会的な事象とを関連付けて考えさせたり、自分たちで実践できることを考えさせたりする。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽のリコーダー学習の技能面では個人差がある。運指や息づかいが、コントロールできない児童がみられる。 ・読譜の習熟度に差がある。 ・歌唱においては、正しい音程をとることができない児童が数名いる。 ・鑑賞においては、ほとんどの児童が曲の特徴を捉えたり、感じ取ったことをワークシートに書いたりすることができる。しかし、感じ取ったことと、音楽の構造との関わらせながら聴くことができる児童は半分ほどである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導でそれぞれのつまずきに応じた支援を行う。休み時間等を使って補充学習を行う。 ・階名や音符に慣れるための教材(プリントやカード)を使用する。器楽の学習においてはレベル別の楽譜を用意し(階名表記無しのものや有りのもの)、一人一人の能力に応じて児童が自分のレベルにあったものを選択できるようにする。 ・教師が児童の近くで歌声を聴く機会を増やす。当該児童が自分の声をよく聴き、音程のずれを認識できるよう、教師と児童が交互に歌ったり、友達どうして聴き合ったりする活動を取り入れる。 ・児童の意見を板書する際に、曲想と音楽の構造に整理しながら書くようにする。また2つがどのように関わっているかを考える場面を設定する。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや願いを生かしたものを作ったり表したりすることには、積極的かつ意欲的である。友達と協力したり、認め合ったりして学習する関係づくりが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作過程の中で、工夫した表し方や道具や材料の取り扱い方のよさを取り上げて、全員で共有する。作品を見る機会を増やし、制作過程などのよさや、いろいろな表し方のあることに気付かせ、自分の表現に生かすようにさせる。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・フラフープを使っての運動や大縄を使っての跳ぶ運動は上達してきた。 ・ペアでのボール運動に楽しく取り組んでいたが、技能的には個人差がある。 ・休校の影響で、走力が落ちている児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に基礎的・基本的な技能を身に付けさせるために、基礎的・基本的な技能につながる運動を取り入れ、継続的に指導する。 ・めあてをもって運動に取り組むことができるようにする。 ・毎時間の中に、短時間でも走る運動を取り入れていく。 	

授業改善推進プラン<学年別>

04 練馬区立豊玉第二小学校

5年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動については、互いの立場や意図を明確にした上で、考えを広げたりまとめたりすることが苦手である。 文章の読み取りについては、文章の内容を的確におさえることが苦手な児童がいる。 筆者の主張に対する自分の考えを、文章に表すことが苦手である。 語彙力が少ない。読書を通じて語彙力を豊かにする必要がある。 漢字の定着に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもち、意図を的確に伝えられるように、ワークシートなどを活用する。自分の意見と友達の意見を比べながら聞くようにし、考えを広げる。 文章の展開をおさえながら要旨をつかみ、それに対する自分の考えを書いたり、話したりする活動の場を設定する。 読んだ本の紹介をし合って読んだ本の魅力を伝える活動を取り入れる。 小テストを行い、漢字の定着を図る。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 既習の学習を生かし、自分の考えをノートに書いたり説明したりすることを苦手としている児童が多い。 要求されたとおりの正確な図形を作図することができない児童がいる。 基本的な計算の技能の定着が不十分な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の確認を丁寧に行い、学んだことをもとに考えていけるようにする。 正しい器具の使い方をその都度確認し、定着を図る。 計算問題は、反復練習を行うことにより定着を図る。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決型の学習が定着していない。生活経験や様々な情報を基に、見通しをもって観察・実験を行うなど、問題解決の活動を行っていくことが必要である。 観察・実験の結果を基に、学習の振り返りや次の問題を発見などを行う考察ができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の予想や結果の記録ができるように、条件や方法、結果など、思考の流れを分かりやすく表現するノート指導を丁寧に行う。 自分で調べたり観察したりして得た情報を整理し、主体的に問題解決できるように、考える時間や話し合う時間を十分に確保する。また、知識だけでなく、自分の言葉で表現できるようにする。 実験の技能が高まるように、教材や器具の充実を図る。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの生活とのかかわり合いを考えながら、学習を深めることができない児童もいる。 産業に従事している人々の工夫や努力について具体的に調べることができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフや表など資料を正確に読み取れるように、クラス全体で確認する。人々の工夫や努力に気付いたり、より具体的な内容に注目したりすることができるように話し合いをする機会を設ける。 資料から気付いたことや分かったこと、考えたことなどを書き出し、自分の言葉でまとめる活動を取り入れる。 	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 英語の発音や、基本的な表現には、個人差が大きい。 外国語活動指導員の役割が單元ごとに明確化されておらず、より効果的な指導体制の構築のため、外国語活動指導員との指導内容の共有をどう進めていくかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や文字のカードやCDを活用して英語の音声や基本的な表現に親しみやすく学習する。 互いの活動や役割をパターン化して、効果的な指導ができるように工夫する。また、外国語担当教員を窓口とし、各学年の指導計画や指導内容について外国語活動指導員と打ち合わせる。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱においては、音程をとることや、自然な発声で歌ったりすることが難しい児童が数名いる。 器楽においては技能面で個人差があり、運指、適切な息づかいで吹くことの困難な児童がみられる。 へ音譜表を読めない児童が多い。 鑑賞においては、強弱や速度、音の重なり方などの曲の特徴を捉えることができる児童は多いが、感性を働かせて自由な発想で曲を聴き、自分の言葉や体の動きで表現することが難しい児童が1/3ほどいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ハンドサインをつかって音程を示したり、教師が近くで歌ったりするなどして、児童の苦手意識を少しずつなくしていく。 個別に補充学習を行う。 階名や音符に慣れるための教材(プリントやカード)を使用する。 自分の考えをもつことが難しい児童は、友達の意見を聞いて参考にしたり、ヒントカードを活用したりして、自分の考えをもつことができるようにしていく。 	

授業改善推進プラン〈学年別〉

04 練馬区立豊玉第二小学校

5年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
<p style="text-align: center;">図 画 工 作</p>	<p>・造形的な能力は、多少の幅はあるものの身に付いてきている。 造形的向上学習の積み重ねを生かそうとする習慣に幅がある。</p>	<p>・成長に応じた抵抗感ある素材を選択する。 時に応じて、用途等も考えて表すことができるような活動内容を設定する。</p>	
<p style="text-align: center;">家 庭</p>	<p>・裁縫の技能面では、個人差が大きい。</p>	<p>・個に応じた課題設定を行うようにする。 ・グループ編成を工夫し、児童間で作業をサポートできるようにする。 ・学習活動の流れ、ポイントを児童が把握できるようにする。</p>	
<p style="text-align: center;">体 育</p>	<p>・ボール運動は好み積極的に取り組む。逆に鉄棒やマットなど器械運動に苦手意識をもっている児童がいる。</p>	<p>・一人一人に基礎的・基本的な技能を身に付けさせるために、学習カードを工夫する。 ・めあてを明確にもたせる。</p>	

授業改善推進プラン〈学年別〉

04 練馬区立豊玉第二小学校

6年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防のため、4人以上での話し合い活動やグループ活動が思うように進めることができなかった。 ・話す活動の際には、話し方だけでなく、相手の話の聞き方などの指導も必要である。 ・文章校正において、一文が長くなってしまったり、主述がねじれたりするなど、適切でない表現に気付くことができないことが多い。 ・文章を読み、内容を読み取る力が身に付いている。しかし、自分の考えや提案を明確に理由付けて書き表すことに差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的距離の確保、マスク着用の徹底などを行い、徐々にグループ活動の場面を増やしていく。 ・対話を通じ、特に聞き手への指導を重点的にを行い、話し手が話しやすくなるようにさせる。そのことを通し、話し手にも話すことへの安心感を与えていく。 ・文章を読み返す指導をし、文章の中で正しく漢字や言葉を使わせる。 ・文章を校正する時に、校正前と後の文章を比べさせるようにする。また、主語や述語を意識させ、文の意味が通っているかという観点でも文を読み返させる。 ・文章を読みながら構成について考える。また、文章を書く際に構成を考えながら見出しを付ける工夫等を繰り返し行っていく。更に、意見文を読んだり書いたりする活動を通して、理由や説明の効果的な使い方について指導していく。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技能の定着は十分できている。しかし、問題解決学習では、既習の学習を生かして、自分なりに様々な解決法を考えることに消極的である。 ・公式などおさえるべき事項は定着しているが、文章問題において正しく使い、立式をすることができない場面が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な基本的な学習事項を確実に身に付けさせるように、個別対応をするとともに、協働的な学習の機会を設ける中で、自分の考えを筋道立てて発表できるようにする。 ・数値を用いて式を立てた段階で、言葉による式に置き換えたり、数字が何を表しているかを確認したりする。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習を進めているが、実験の仕方や器具の扱い方が不十分な点が見られる。 ・問題解決型の学習が定着していない。生活経験や様々な情報を基に、見通しをもって観察・実験を行うなど、問題解決の活動を行っていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験の方法や器具等の扱い方について個別に対応し、支援していく。 ・ノート指導を丁寧に行い、知識・理解の定着を図るとともに、問題解決の仕方を定着させる。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から、学習問題の解決に導くことのできる事柄を読み取ることが難しい。 ・学習問題を設定したあと、追及意欲が単元を通して持続しない。 ・歴史的事象が、現代にどのようにつながっているかを捉えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を提示する際は、読み取る観点を明確にするとともに、個人での読み取りだけではなく、グループでも話し合う活動を取り入れ、友達同士で資料の読み取り方を共有できるようにする。 ・単元の学習計画を掲示することで、児童自身が単元のどこを今学習しているのかを把握できるようにし、追及意欲の持続を図る。 ・歴史的事象と、それに関する現代の事象が比較できるように、資料提示の方法を工夫する。 	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の発音やコミュニケーションには、個人差が大きい。 ・外国語活動指導員の役割が単元ごとに明確化されておらず、より効果的な指導体制の構築のため、外国語活動指導員との指導内容の共有をどう進めていくかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や文字のカードやCDを活用し、ゲームを取り入れて英語の基本的な表現に親しみやすい学習内容にする。 ・互いの活動や役割をパターン化して、効果的な指導ができるように工夫する。また、外国語担当教員を窓口とし、各学年の指導計画や指導内容について外国語活動指導員と打ち合わせる。 	

授業改善推進プラン〈学年別〉

04 練馬区立豊玉第二小学校

6年	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱においては、ほとんどの児童が自然な発声でのびのびと表現することができている。しかし、変声期に入ったことで発声の仕方が分からないために、自信をもって歌うことができない男子児童が数名いる。 ・へ音譜表を読めない児童が多い ・鑑賞においては、曲想の変化に気付いて聴くことはできるが、それを音楽の構造と関連付けて味わうことは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変声期を迎えた児童には、できる範囲で声を出すよう伝える。男性教員の助けを借りて、児童の近くで歌ってもらうようにする。階名唱をくり返すことで音程感覚をつかめるようにする。 ・階名や音符に慣れるための教材を使用する。 ・音楽を構造的に理解できるよう、板書や視覚教材の工夫をする。曲を聴く際の視点を明確にすることで、味わって聴くことができるようにする。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な能力は、身に付いてきているが、個人差があったり教師の指示に頼ったりすることが多い。 ・自分の感覚や考えを大切に物事を捉えるのではなく、他から得た知識や友達の考えなどをもとにして考えたり創造したりする傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じ、抵抗感ある素材でも選択を試みるよう助言する。 ・単元によっては、作品の用途等も考えて表すことができるような活動内容を設定する。 ・小学校卒業の節目を意識させることで、自分の感覚や考えを十分に働かせて取り組める題材設定をする。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・技能面での個人差が大きく、同じように課題に取り組ませることが難しい。 ・生活経験の違い、生活環境の違いを配慮して、指導計画を立てることが難しい。 ・調理や裁縫などをふだんの生活にすぐにつなげることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた課題設定を行うようにする。 ・グループ編成を工夫し、児童間で支援し合える環境を整備する。 ・他教科(道徳・総合など)の指導でも同一テーマで取り組み、個を認め受容する意識を育てる。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動・跳び箱などでグループでの見合い・教え合いの活動を取り入れている。個々のめあてを大切にしながら、美しい動作を意識させて学習を進めているが、難しい技に挑戦することばかりに意識が向いてしまう児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体指導での説明を分かりやすくし、取り組む技のポイント、友達同士で見合う際のポイントが明確になるようにする。個々のめあてをしっかりと、学習ノートや掲示資料を充実させ、めあて学習が自分たちで進められるように準備する。 	